

令和7年度

学 校 教 育 計 画

大阪府立花園高等学校

全日制の課程

目 次

学校経営計画	1
I めざす学校像	
II 中期的目標	
III 今年度の重点目標	
第1 学校教育活動の方針	
1 学習指導の方針	7
2 特別活動の方針	9
3 道德教育及び生徒指導の方針	10
4 進路指導の方針	13
5 人権尊重の教育の方針	14
6 健康管理と指導の方針	15
7 学校組織の運営方針	17
8 教員の研修方針・研修計画	18
9 教育の情報化の方針	19
第2 校務分掌	
1 校務分掌表	20
2 学年主任、ホームルーム担任一覧表	21
3 生徒会活動、部活動顧問一覧表	21
行事予定表・教育課程表	22

令和7年度 学校教育計画

学校経営計画

I めざす学校像

「誠実・努力・協調」を校訓として掲げ、生徒も教職員も健康で生き生きと学び続ける自分にとっての「最高」の学校。与えられた生命の可能性を伸張し、能力を最大限に発揮する知性と感性を育み、国際社会の中で適切な判断、意思決定、社会参画ができ、人とつながり、心豊かに次代を生きる力をはぐくむ教育を実践する。

1. 学び続ける意欲と態度を養い、確かな学力を身につけ、高い志を持って将来を見据えた進路を切り拓き、自らの人生を創造する力をはぐくむ。
2. あらゆる教育活動を通して人権感覚を高め、「誠実に生きる力、努力し続ける力、協調する力」を身につけた豊かでたくましい人間性をはぐくむ。
3. 豊かな国際感覚と優れた外国語運用能力を身に付け、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となる人材を育成する。

II 中期的目標

1. 学び続ける意欲と態度、確かな学力の育成

(1) 授業力向上の取組み

ア 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の研究・開発・実践を組織的に進める。

イ 包括的な教育ビジョンに位置づけられた教科指導の学習達成目標及び評価指標を共有し、計画・実践（指導）・評価・改善（PDCA）を繰り返し、不断の授業改善に取り組む。

ウ 1人1台端末を利用した学習環境を整備し、これまでの教育実践にICTを取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を効果的に組み合わせた学びを開発・実践する。

エ 授業アンケートの結果を踏まえた改善を進め、互見授業・公開授業・校内外の研究授業等を通じて組織的な授業力向上の取組みを進める。

(2) 学習到達度の把握と学力伸張の取組み

ア 1年次から学力生活実態調査、模擬試験等を利用して学習到達度を把握し、教科・学年・分掌が協働して基礎学力定着と応用的学力伸張に取り組む。

イ 授業において、「復習・予習→授業→復習・予習」のサイクルを日々行う意識を根付かせ、学び続ける力をつける。

(3) 自学自習の習慣を確立する取組み

ア 生徒が主体的に個別の学習到達目標を設定し、1年次から自学自習が学力伸張に繋がる実感が持てるように持続可能な学習支援を効果的に行う。

イ 小テスト・朝学・補習・講習・週末課題など、これまでの教育実践がより効果的な学習になるようにICTを取り入れ、学習動画配信やオンライン学習の開発・実践に取り組む。

ウ 学校経営推進費整備事業（R3）の「花園高校図書学習情報センター」を効果的に運用して以下のミッションを達成し、生徒のあらゆる学びを支援するシステムを構築する。

- ①「情報発信スタジオ」を整備し、教員によるオンライン教材の開発を進める
- ②「校内教育資料横断検索システム」を構築し、書籍や学校行事等の映像、各教科等の学習動画などをアーカイブ化し、本校の教育活動全般を検索・閲覧できるようにする
- ③「生徒が読みたい本」「生徒に読ませたい本」を整備し、読書活動を啓発し、読書によって教養を身につける経験をさせ、自主的な読書活動を支援する。

※学力生活実態調査（２年次 ８月）B2以上 40%（R4：20.0%、R5：38.0%、R6：33.7%）、B3以上 80%（R4：45.1%、R5：71.0%、R6：68.5%）

＊「生徒向け学校教育自己診断（以下生徒自己診断）」令和９年度までに

「授業などで自分の考えをまとめたり、発表したりすることがよくある」92%以上（R4：85%、R5：89%、R6：91%）、

「教え方に工夫をしている先生が多く、授業は分かりやすい」90%以上（R4：84%、R5：83%、R6：88%）、

「コンピュータ等の ICT 機器が授業などで活用」90%以上（R4：95%、R5：93%、R6：93%）、

「授業・補習を通じて、進路に必要な学力を得ることができる」90%以上（R4：88%、R5：87%、R6：91%）、

「態度よく集中して授業を受ける」90%以上（R4：87%、R5：86%、R6：92%）、

「宿題・予習・復習など、家庭学習の習慣がついている」70%以上（R4：59%、R5：59%、R6：68%）、

＊令和９年度に向け、年間図書貸出冊数を前年比 1.1 倍増。（R6：1126 冊）

2. 将来を見据えた進路を切り拓く力の育成

（１）進路指導体制の構築

ア 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた３年間の進路指導計画を策定し、教科・学年・分掌の協働による全教職員が一体となって取り組む進路指導体制を構築する。

イ 大学や企業など外部の様々な職業人を講師として招聘し、または、訪問して学ぶ機会を安定して供給できる体制を整える。

（２）探究的学習の推進

ア 「第４次大阪府子ども読書活動推進計画」に則り、SDGs 探究活動や進路探究学習に読書活動を積極的に取り入れ、インターネットによる情報のみに頼らない、確かなエビデンスに基づく探究的学習を実践し、自らの進路を切り拓く力を育成する。

イ 「総合的な探究の時間」や「花園進路探究プログラム」等で自発的に学び探究する能力を引き出し、全生徒が探究活動を通じて成長した実感が持てるよう指導する。

ウ SDGs に係る探究活動において、当事者に共感し、真に当事者意識を持って課題解決する能力を養い、未来を創造する力を育成する。

※生徒自己診断 令和９年度

「将来の進路や生き方について考える機会がある」94%以上（R4：91%、R5：91%、R6：94%）、

「探究的な学習を積極的に取り組む」86%以上（R4：80%、R5：75%、R6：84%）、

「自分の進路についてしっかりと考えている」87%以上（R4：79%、R5：78%、R6：85%）、

※国公立大学及び難関私立大学現役合格者 100 名以上（R4：178、R5：182、R6：167）、学校幹旋就職内定率 100%。

3. 人権が尊重された教育の推進と社会性の育成

（１）自己とあらゆる他者の人権を尊重し、多様性を認め、高め合う感性の育成

ア 互いに理解し繋がる力を育成し、誰もが自分の居場所がある集団育成に取り組む。

イ 関係教科と連携し、組織的・継続的な指導を行い、情報リテラシーを育成する。

（２）社会性の育成

ア TP0 に応じ、責任感を持って行動できる生徒を育成する。

イ 校内美化を推進し、落ち着いて学習に取り組むための清潔で快適な学習環境を保つ。

(3) 自主的な活動への参画

ア 生徒会活動やボランティア活動に協調性を持って積極的に取り組む生徒を育成する。

イ 部活動に所属して生徒が主体的に個性や能力を伸長する機会を確保し、目標を持って継続して取り組む生徒を育成する。

※生徒自己診断 令和9年度

「本校で人権を尊重することについて学べている」96%以上を維持 (R4 : 92%、R5 : 92%、R6 : 96%)、

「HR 教室は居場所として快適である」90%以上を維持 (R4 : 91%、R5 : 89%、R6 : 91%)、「本校で友好的な人間関係を築けている」95%以上を維持 (R4 : 93%、R5 : 95%、R6 : 91.95%)、

「本校の校則や決まりをよく守っている」88%以上を維持 (R4 : 94%、R5 : 95%、R6 : 86%)、

「教室や廊下などは清掃がいきとどき授業をするのにふさわしい環境である」73%以上 (R4 : 72%、R5 : 68%、R6 : 71%)、

「HR 活動や生徒会行事に積極的に参加」90%以上を維持 (R4 : 89%、R5 : 88%、R6 : 91%)、「部活動が活発」90%以上を維持 (R4 : 94%、R5 : 94%、R6 : 95%)

4. 豊かな国際感覚と優れた外国語運用能力の育成

(1) 多文化理解教育の一層の充実

ア 留学生や姉妹校との交流 (WEB を含む) や多文化理解に係る体験的学習を推進し、多文化共生について深く考え、課題の解決に協働して向かう姿勢を養う。

イ 英語や第二外国語 (韓国朝鮮語・中国語・フランス語) の授業等を通して、異国の文化や伝統等を学び理解し尊重する態度を養う。

(2) 英語4技能を総合的に伸ばす英語教育の充実 (国際文化科・普通科)

ア ICT を活用し、4技能を総合的に伸ばす指導方法を開発するとともに、ネイティブ英語教員を最大限にいかした英語教育を実践する。

イ スピーチコンテストやインターナショナル・フェスティバル等で発表する機会を積極的に取り入れる。

ウ 英語運用能力について、英検2級取得を目標とするとともに、第二外国語の語学検定試験、英検準1級等資格取得に挑戦させる。

エ 国際理解教育を推進し、生徒の視野を広げ、海外語学研修や留学に挑戦させる。

※生徒自己診断 令和9年度 「国際交流・国際理解教育が充実」95%以上 (R4 : 91%、R5 : 90%、R6 : 94%)

※令和9年度までに、国際文化科2年英検2級取得 25% [R6 : 22%]

参考 CEFR-J スコア B1.1 以上 50%、A2.2 以上 100% (R4 : B1.1 以上 46%、A2.2 以上 100%、R5 : B1.1 以上 46%、A2.2 以上 100%) *R6 までの指標

5. 学校力の向上

(1) 業務の効率化と生産性を向上させる仕組みづくり及び働き方改革の推進

ア 教科・学年・分掌の持続可能な協働体制を確立し、すべての教職員が主体的に学校経営に参画する意欲を持つ教職員集団を組織する。

イ 人権教育や防災教育の推進、授業改革やオンライン学習支援の充実、生徒指導や進路指導のスキル向上など教職員の資質向上に寄与する研修を効果的に実施する。

ウ ICT ソリューションを活用した会議運営及び情報共有の効率化を図るとともに全校一斉定時退庁日を定着させ、働き方改革を推進する。

(2) 広報活動の充実、開かれた学校づくりの推進

ア 学校説明会等における「花園 PRESS」活動やWEB ページの充実、及び、地域・中高・高大の連携を推進する。

※教職員自己診断 令和9年度

「会議が有効に機能」80%以上（R4：66%、R5：70%、R6：79%）、「各組織の連携」65%以上（R4：58%、R5：45%、R6：65%）、

「校内研修は役立つ」65%以上（R4：70%、R5：66%、R6：63%）、「中学生への情報発信」90%以上（R4：96%、R5：87%、R6：87%）、

「保護者や地域に対して十分な情報を伝えている」80%以上（R4：78%、R5：74%、R6：75%）

※保護者自己診断「保護者への連絡や情報提供を積極的に行っている」85%以上

（R4：84%、R5：79%、R6：85%）。

Ⅲ 今年度の重点目標

1 学び続ける意欲と態度、確かな学力の育成

（1） 授業力向上の取組み

ア 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業

研究や実践の共有化のため、教職員が随時閲覧可能な資料のアーカイブ化を行う。

イ 「観点別学習状況の評価」の運用を円滑に実践し、指導と評価の一体化を進める。

ウ ICTを活用した効果的で効率の良い授業を開発・実践する。

エ リーディング GIGA ハイスクール・アドバンス校として研究公開授業を行い、電子黒板を効果的に活用した授業開発を進める。

（2） 学習到達度の把握と学力伸張の取組み

ア 教科ごとに学習到達度分析会を年3回実施する。学力向上を図る具体的な取組みを教科・学年・進路指導部が協働し実践する。

イ 持続性のある主体態度を伸張する授業計画を組織的に立て、教科間の連携を図りながら無理のない課題を与え、生徒が主体的に学ぶ意欲を向上させる。

（3） 自学自習の習慣を確立する取組み

ア 学習支援クラウドサービスを活用し、予習・復習を毎時の授業に反映させる。

イ 朝学や週末課題配信、教育産業の動画配信サービス等を活用し自学自習習慣をつける。

2 将来を見据えた進路を切り拓く力の育成

（1） 進路指導体制の構築

ア・進路指導方針に沿った教科単位の具体的な3年間の指導計画を策定・共有し、各学年「集中学習会」を実施する。

・外部模試等の結果を踏まえ、進路実現に向けた学習計画や内容の確認・修正を組織的な取組みとして個別に行う。

・理系人材の育成に向けDX事業の推進を図る。

イ 近畿大学・畿央大学等との高大連携や企業との連携事業を推進し、キャリア教育を充実させる。

（2） 探究的学習の推進

ア 「総合的な探究の時間」について、SDGsをテーマに「深い学び」につながる指導を行う。

イ 生徒が自発的に探究し、発表する機会を作り相互評価によって高めあう集団を育成する。

ウ SDGsに係る探究活動を通して思考力や共感力を育成し、その成果を発表する機会を設ける。

3 人権が尊重された教育の推進と社会性の育成

(1) 自己とあらゆる他者の人権を尊重し、多様性を認め、高め合う感性の育成

ア・誰もが生まれながらにして持っている人間として幸せに生きていく権利を尊重する心を育み、互いに認め合う集団育成を進める。

・同和問題について学習し理解を深める。

イ 教科と連携した様々な角度から情報リテラシーの学習を実践する。

(2) 社会性の育成

ア 規範意識を持ち、基本的生活習慣を確立するため、遅刻防止週間を実施する。

イ 日常の清掃活動を実施計画により実践する。

(3) 自主的な活動への参画

ア・生徒が企画・運営する花高祭を実現する。

・ボランティア活動等の地域連携を深める。

イ 部活動に係る施設・設備等の充実や指導者を拡充し、部活動を頑張る生徒を応援する。

4 豊かな国際感覚と優れた外国語運用能力の育成

(1) 多文化理解教育の一層の充実

ア 在日外国人や留学生との交流や姉妹校等との対面または WEB 交流を推進し、多文化理解に係る体験的学習を充実させる。

イ 語学教育を通して、他国の文化や伝統、習慣等について学ぶ機会を充実するために、2 年次でポスターセッションを行う。

(2) 英語 4 技能を総合的に伸ばす英語教育の充実

ア・ICT を活用した CanDo リストに基づく 4 技能を総合的に伸長する教育を実践する。

・教育産業の学習教材を効果的に活用し、高いレベルの英語力を育成する。

イ 1 年レシテーション及び 2 年スピーキングコンテストの実施やインターナショナル・フェスティバル等に向けた講習を充実させる。

ウ・英検準 1 級対策講座実施、第二外国語検定を積極的に勧める。

・国際文化科の生徒の英語力到達目標を英検 2 級取得とし、教科指導を実践する。

5 学校力の向上

(1) 業務の効率化と生産性を向上させる仕組みづくり及び働き方改革の推進

ア・『将来構想委員会』設置し、分掌業務及び各委員会組織の見直しを行う。

・教科・学年・分掌の協働体制を確立し、機能的な学校運営体制の構築をめざす。

イ 人権、防災、ICT、授業改善に係る職員研修を各 1 回実施する。

ウ・ICT ソリューションを活用した会議のスリム化及び情報共有の効率化を実現する。

・定時退庁日の励行に取り組む。

・みどり清朋高校との部活動連携を充実させ、「部活動方針の遵守」に努める。

(2) 広報活動の充実、開かれた学校づくりの推進

ア・「花園 PRESS」活動を充実し、生徒による広報を推進する。

- ・本校ホームページ及び公式ブログ等で教育活動を積極的に発信するため組織的に取り組む。
- ・保護者に対し、迅速かつ的確な情報を提供し、情報発信の広報を積極的に行う。

イ 生徒会活動としての地域連携（小学校・中学校・高校など）に取り組む。

第1 学校教育活動の方針

1 学習指導の方針

教科指導においては個々の生徒の学習到達度を高め、生徒が自主的に学習意欲を奮い起こして学習に励み、生き生きとした学校生活ができるように配慮する。また、生徒の能力・特性の実態を正しく把握し、各教科において基礎基本を明確にし、教材の精選・工夫を行い、体験学習や問題解決学習など多様な学習方法の研究に努める。

(1) 教育課程の充実

- ① 生徒の実態・進路に応じるために、別表のとおり各類型別の教育課程を設ける。
- ② 生徒の多様な進路志望達成のために、選択教科・科目を設定し学習に便宜を与える。
- ③ 普通科においても国際理解教育を進めるため、国際理解行事等を国際文化科と同様に実施できるようにする。
- ④ 総合的な探究の時間を活用する。
- ⑤ 数学においては少人数展開授業を実践し、英語においては可能なかぎりNE Tを配し、また普通科の選択教科・科目、国際文化科の異文化理解などでも少人数教育および生徒個人の学力に応じた展開授業を行い、教育効果を高める。

(2) 確かな理解力と深い思考力の養成

教科の指導に当たって、教員は生徒の実態に即した綿密で合理的な指導計画を立て、充実した授業を行うように努める。また、常に生徒一人一人の動向に着目し、単に知識の習得に終わらせることなく、生徒が「学習の喜び」を体得し、自主的な学習態度及び豊かな人間性を身につけることができるように努める。生徒の理解を促すために適宜、補習等を実施し、学習効果を高める。

(3) 各教科の達成目標

- | | |
|-------|---|
| 国語科 | 現代文では社会人として必要な表現能力・読解能力・鑑賞能力の育成を図る。古典では、基礎的な言語理解能力を育成し、今日につながる伝統文化への理解を深める。 |
| 地歴公民科 | 各科目の基本知識を定着させることによって、社会現象の歴史的経過や自然環境と人々の営みの関連性と現代社会のあり方と結びつきを多角的に考察する姿勢を養う。 |
| 数学科 | 基本事項の完全マスターと応用問題も含めた演習を通して学力の伸長を図る。様々な場面で活用できる論理的な思考力・判断力を養う。 |
| 理科 | 各科目においては自然の観察や実験を通して、科学的思考力や探究心を養う。自然界のなりたちや法則をできるだけ定量的に扱える能力を身につけさせる。 |

保健体育科	個々の生徒の体力の状況を把握し、体力の向上と併せて各種運動能力の習熟を図る。また集団行動の能力を身につけさせることにより社会性の育成を図る。
芸術科	基礎的な表現力・鑑賞力を十分に把握させ、創造力を培い、豊かな人間性を身につけさせる。
英語科	すべての生徒に読む・書く・聞く・話すの全領域にわたる英語の学習を通じて豊かな言語感覚を身につけさせる。国際社会に対応できるコミュニケーション能力を育成することを目標とする。
家庭科	家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の意義を理解させる。又、現在だけでなく将来を視野に入れた、個人の生活自立を目標とする。
情報科	情報の収集・加工・発信などの実習を通して、コンピュータや情報通信ネットワークの特性や仕組みを理解し、情報を活用するスキルを身につけさせる。また、その基礎の上に情報社会に主体的に参加していく態度を育む。

2 特別活動の方針

生徒の自律性・公共性の育成及び集団としての連帯意識の育成と高揚に目標をおき、生徒が生徒会活動・部活動・ショート及びロング等のホームルーム活動・学校行事等を通して楽しい雰囲気の中で活動できるように指導する。特にホームルーム活動では温かい人間関係の醸成に努め、一人一人の生徒が学校生活に適応するよう指導する。また、部活動では、すべての生徒が積極的に参加し、健全な趣味や豊かな情操を養うよう指導するとともに、教員と生徒が心のふれあいをもつように心掛ける。

(1) ホームルーム・生徒会・部活動

活動の種類	活動内容	実施時間	摘 要
ホームルーム	ロングタイム	毎週木曜日	14:25～15:15 青年期にある生徒の実態から遊離することがないよう生徒の意見や希望も取り入れ、各学年について計画を立てる。また各時限の展開については、事前にクラスの代表に適切な資料を提示の上検討させる。
ホームルーム	ショートタイム	始業前 終業後	8:35～8:45 15:15～15:20(火、木、金) 16:15～16:20(月、水)
生徒会	生徒議会	月1回程度	各学級代表2名と役員で構成
	執行部会	適宜	会長・副会長・書記・会計・文化委員長・体育委員長・学年代表で構成。生徒会顧問の指導をうけ、生徒として望ましい自発性、自主性を養う。
	各種委員会	適宜	集団としての連帯性の高揚と集団の運営に協力する体制として設ける。
部活動	文化部 (12)	放課後各部活 単位で実施	美術部 放送部 サイエンス部 茶道部 フォークソング部 吹奏楽部 パソコン部 マッパラム部 ダンス部 漫画研究部 英語同好会 フランス同好会
	運動部 (17)		ラグビー部 サッカー部 男・女バレーボール部 男・女バスケットボール部 ソフトボール部 硬式野球部 卓球部 柔道部 剣道部 陸上競技部 器械体操部 水泳部 バドミントン部 ソフトテニス部 硬式テニス部

3 道徳教育及び生徒指導の方針

生徒がそれぞれの自覚に基づいた責任のある行動をし、他者や社会に対する義務を果たすという社会的連帯と道義的な心情を培い、社会の有為な形成者として広い視野を備えた人間の育成に努める。また、生徒の自主活動を伸長させ、民主的教養と自己規律を身につけさせる方向で、すべての教員が一致して生徒指導に臨む。そのために、あらゆる機会を活用して討議を行い、意思確認を図る。そして、特に生徒自身が集団生活を営む自覚に立って、基本的生活習慣と民主的な集団ルールを確立できるよう指導に努める。

すべての教員が、教育的識見に基づいて生徒の実態の把握に努める。この場合、人権尊重の精神に徹し、個人的な偏見などに陥ることなく、よき相談相手となるよう心掛ける。

(1) 生徒指導

① 個別指導計画

個々の生徒を深く理解するために、生徒の適性や能力を継続的に観察記録し、それぞれの個性に応じた指導を行うため、次のような計画にしたがって個人指導を実施する。

i 資料の整理

種 類	内 容
生徒カード	組ごとに生徒個別の指導カードを作成する。このカードには個人写真を貼付し、家族構成、指導内容などをその都度記録して、生徒の学校内外における行動が把握できるようにする。 生徒のプライバシー保護の見地から、その取扱い、保管を厳正に行う。
高校生活支援カード	生徒個別の支援カードを作成する。このカードは、これまでの生徒の学びや育ちを引き継ぎ、すべての生徒にとって、安全で安心な学校づくりをすすめるために作成する。作成したカードは、学校生活のさまざまな場面で、指導や支援の充実に向けて活用する。また、必要に応じて「個別的教育支援計画」の作成につなげる。

ii 指導委員会・相談室等

種 類	内 容
補導委員会	生徒の問題行動に対する指導・措置を協議し、懲戒を要するときは原案を作成する。
教育支援委員会	学級担任やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどが必要に応じて随時生徒の教育相談を行う。また学年や人権教育推進委員会などから要請のあった生徒について、学校内での支援の内容を検討し実行する。
いじめ防止対策	いじめの早期発見やいじめ生起時の対応について検討及び実行をする。

委員会	
留学委員会	留学の申し出があった時に、可否を検討する。 また、帰校時に単位の認定等について校長に意見を具申する。

iii 特に留意する点

a 基本的な生活習慣の育成

ア 部活動など課外活動を定められた時間内で効率よく効果的なものにさせ、毎日の心身の健全を維持させる。

イ 服装・身だしなみに適切な助言を与え、指導する。特にパーマ・染髪は行わないよう個人指導をする。

ウ 他人への迷惑行為や盗難、暴力・喫煙行為の防止など、団体生活の場におけるルールを厳守させる。特に盗難の防止のために、校内巡視の強化に努める。

エ 覚せい剤等の薬物乱用、出会い系サイト等を利用した性非行など、高校生が関与する問題行動について、生徒の実態把握に努め、問題行動の早期発見、指導徹底を図る。

b 出席・遅刻状況の調査と指導

ア 無届の欠席・遅刻はできるだけ速やかに電話で家庭に連絡し、家庭訪問あるいは保護者の招喚等により、事由を明確に把握する。また、遅刻過多のものに対しても保護者と連携して個人指導を行う。届出のある長期欠席などについては、定期的にその状況を調査し個人指導を行う。

イ 毎日行われる始業前・終業後のショートホームルームにおいて、その日の生徒一人一人の状況を確実に把握し、個人指導を徹底する。

c 交通安全の指導

ア 生徒に対して自らの交通ルール遵守はもちろんのこと、周囲の状況に注意して通行する必要があることを指導する。

イ 把握している危険個所を周知し、注意喚起するなど、一層の交通安全確保の取り組みを行う。

d 行事参加に関する指導

ア 生徒が諸行事及び旅行に参加する場合は、保護者の承諾を求める。

② 集団指導計画

i 遠足は、生徒の在学 3 ヶ年間にわたる体系的な計画によって実施し、有益な見学などを織り込みながら社会的・集団的な訓練の場とする。

ii 読書指導については、青年期にある生徒に自我を自覚させ、個性の伸長を図らせるとともに普遍的なものの見方を学ばせるようにする。

- iii 生徒会活動を通して、各クラスの気風・生徒の実情の把握に努め、生徒の希望と併せ考えて一層効果的な指導ができるようにする。
- iv その他学校祭や球技大会等を開き、協力して目標を達成する喜びを感得させる。

(2) 道徳教育

① 道徳教育

- i 道徳教育は教育活動のすべての領域において行い、「人間としての在り方、生き方」についての自覚を深める。特に、ホームルーム、クラブ活動など特別活動における生活指導を充実強化する。
- ii 地歴公民科の学習においては、社会的関心を正しく伸ばし、倫理的感覚を培うとともにあらゆる機会をとらえて、明朗で公正な交友関係の育成に努める。
- iii 情操教育は学校教育のすべての分野において行うが、特に国語科における文学作品鑑賞や芸術科やクラブ活動において内容の充実を図る。その一つとして、能・狂言、演劇などの鑑賞の機会を与える。
- iv ホームルームにおける指導内容には、男女交際・友情・幸福・人生観・世界観等の道徳教育上の問題点を自主的に取り上げるようにし、円満な人格の形成を図るとともに、その運営においても生徒の意見が十分に反映されるようにする。
- v 各種学校行事が道徳教育的訓練の場として活用できるように積極的に指導する。
- vi 教師の人格が生徒に与える感化力はまことに大きいものであるが、教職員は常に自らの品格を高めるよう研鑽に努める。
- vii 部活動は、それぞれ複数の顧問をおき、その充実を図る。

(3) 交通安全教育

時期	対象生徒	指導の内容
3月下旬	選抜合格者	自転車、バイク事故の実態
4月上旬	全学年	安全な生活（自転車通学、バイク事故）
6月中旬	1学年	自転車安全運転講習会
7月下旬	全学年	高校生の交通事故の実態と安全について
12月下旬	同上	交通安全についての注意を喚起

LHR等の時間で、交通ルールの遵守はもちろん、自転車の安全な運転についての指導を実施し、自転車の運転者について努力義務となったヘルメットの着用についても周知する。

(4) 学校図書館の利用指導及び読書指導計画

- ① 本校における留学生指導及び国際理解教育などあらゆる教育活動のセンターとして、必要な図書館資料の充実を図り、本校教育の目標達成に資する。

- ② 新入生に対するオリエンテーションとして、総合探究もしくはHRをそれにあて、利用指導を行う。
- ③ 幅広く、かつ深く、生徒の情操や知性、人間的資質の全面的成長を図るため、読書について積極的な指導を行う。
- ④ 生徒の読書生活を効果的に進めさせるため、その指針として興味深く、かつ優れた書物の紹介等を行う。
- ⑤ 総務部職員の指導のもとに各学級図書委員を図書館運営に参加させ、昼休み・放課後の当番及び各学年代表を置き、より効率的、教育的な運営を図る。
- ⑥ 生徒図書委員及び教員のリクエストを元に総務部で適切な書籍の購入に努める。
- ⑦ 図書館だよりを発行して、生徒の読書意欲の啓発や図書館活動のPRに努める。

4 進路指導の方針

- 1. 生徒の可能性を信じ、その潜在能力を最大限引き出せるように、常に前向きな態度で生徒に接し、生徒の進路実現をサポートしていく。
- 2. 生徒の興味関心に目を向け、その能力適性をより多くの目を通して客観的に判断し、生徒の夢を育みながら、生徒一人ひとりが「3年間の総決算」として希望の進路実現ができるように、1年次より体系的・段階的・組織的でいねいな進路指導体制を維持する。
- 3. キャリア教育を軸にして、生徒の卒業後の人生が豊かになるように、生徒ひとり一人の将来をじっくりと考えて指導する。そのために、きめ細かな声かけと進路面談を大切にし、生徒が自尊感情を持ち進路意識を高めていけるように最後まで全力で支える。

指導の際の留意点

- ① 常に担任団との意思疎通を図り、指導方針を確認するよう心掛ける。
- ② アンケート等を実施することにより生徒の現状を把握し、また「進路通信」等によって、生徒の進路意識を喚起するように努める。
- ③ 各種説明会への参加などを通して、正確で最新の情報を収集させる。
- ④ 「進路の手引」を発行し、全教職員が日常的に生徒の進路指導に活用できるようにする。
- ⑤ 進学講習や自習室を効果的に活用させ、生徒の学力向上につなげる。

5 人権尊重の教育の方針

(1) 方針

激動する国際社会において、人権尊重の視点はますますその重要性を増している。人権教育の重要性を鑑み、その充実を図るため、生徒の発達段階や意識の実態を考慮しつつ、豊かな人間形成の一環としての人権教育の内容と方法に関する学習、研究を継続的に行っていく。その中で、部落問題、在日韓国・朝鮮人問題をはじめとする在日外国人問題、障がい問題、性差別問題、いじめの問題、更に国際化の中で新たに課題となっている国際理解や多文化理解の問題等を重点課題として、その研修に取り組む。

全教職員による人権教育実践の積極的な推進を目指して、ホームルーム指導、教科指導に重点を置きつつ、担任講話、講演会、クラスでの討議、視聴覚教材を用いた指導や、読書指導、作文教育等々、可能な限り多面的な方法を講じる。そして、個人の尊厳と人権を重んじ、民主主義を尊重し、生徒一人一人に確固たる目標と生き方の指針を与えて、人権感覚・人権意識を養い、差別をしない、差別を許さない人間育成のための教育の徹底を期して努力する。

(2) 取り組みの重点

- ① ここ数年、毎年のように障がいがあり、配慮を要する生徒が少なからず在籍している。
ノーマライゼーション・障がい問題に重点を置いて取り組む。
- ② これまでの国際理解教育の経験を踏まえ、アジア諸国に焦点をあてつつ、これを行う。
- ③ 同和問題の現状と課題について理解を深めるHRを行い、人権が尊重された社会に寄与する精神を養う。
- ④ 「拉致問題」について正しい知識と関心を持たせる取り組みを実施する。

(3) 各学年人権教育計画

① 第1学年

社会に存在する様々な差別問題・人権問題に関心をもち、かつ主体的に取り組むことによって認識を深め、人権尊重に富んだ人間形成に取り組む。

- i インターネットと人権
- ii 人権意識調査
- iii アサーション・トレーニング（人間関係育成）
- iv 在日外国人（在日韓国・朝鮮人を含む）問題

② 第2学年

社会に存在する様々な差別問題・人権問題に関心をもち、かつ主体的に取り組むことによって認識を深め、人権尊重に富んだ人間形成に取り組む。1年次の取り組みをさらに深め、人権にかかわる身近な問題に気づくことの大切さを再認識させたい。

- i 修学旅行・海外研修旅行事前学習
- ii 在日外国人（在日韓国・朝鮮人を含む）問題
- iii 障がい問題

③ 第3学年

1、2学年の人権教育ホームルームをふまえ、さらに豊かな人権感覚を身につけさせることを目標としたい。

とくに第3学年においては、生徒たちが高校卒業後の社会において差別・人権侵害に出会った時、それを見抜く力をつけ、それらに対応できる人間形成を目標とする。人権に関わる情報や知識を身につけるだけでなく、それらをもとに自分自身の生き方を考えていく手がかりとさせたい。

- i 就職差別について（近畿統一応募用紙の精神を理解する）
- ii 人権意識調査
- iii 拉致問題
- iv 同和問題

(4) 教職員人権研修計画

生徒の状況、時代のニーズ等を踏まえ、年間1回以上の教職員研修を実施する。

6 健康管理と指導の方針

(1) 方針

① 学校環境の清潔維持

校舎内外を適切に区分し、各区分の分担指導責任者を決め清掃の徹底を図る。また、大掃除を必要に応じて行う。美化点検を、保健委員の協力により実施する。特に廊下・ロッカー周辺の美化を図る。

② 学校安全の推進

安全管理・安全教育の指導は体育・保健の時間の他、ホームルームや生徒集会を利用して行う。

部活動時の安全の管理と指導は部顧問及び指導当番が行う。常に事故が起こらないよう十分な点検・注意を行い、必要な措置をとる。

事故が発生した場合は、担当教職員と部顧問及び指導当番が協力し速やかに相応の措置をとる。

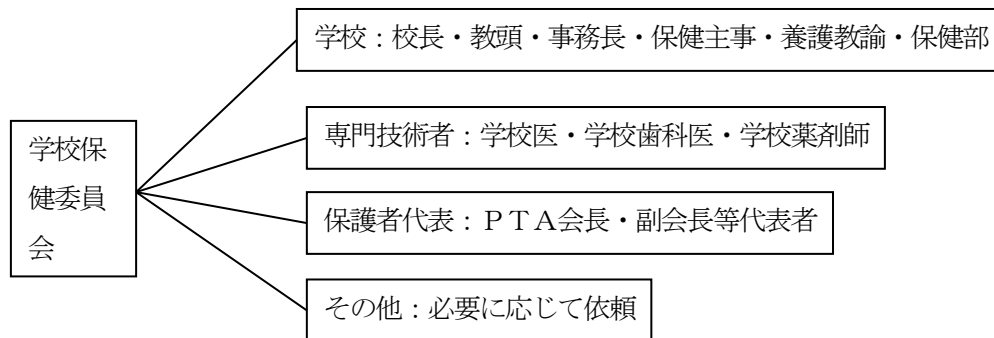
③ 疾病予防

各種検診の機会を利用し、健康の重要性を認識させるとともに疾病の予防と早期発見、早期治療に努めるように指導する。

(2) 学校保健安全計画

学校保健計画

- i 年間保健計画の樹立
- ii 学校保健委員会の設置



iii 生徒の定期健康診断—保健指導と管理の徹底

a 健康診断結果の有効な活用

ア 結果をまとめ、全体及び個人の実態を知らせる。

体格・疾病についての統計を作成する。

イ 疾病異常の処理

- ・ う歯——検診による予防・受診の勧め
- ・ 視力——姿勢、メガネの適正化・受診の勧め
- ・ 結核——レントゲン検診による要注意者の発見及び適切な指導
- ・ 心臓・腎臓疾患——心臓検診・尿検査等により疾病の早期発見に努め、適切な指導を行う。

ウ 家庭との連絡

エ 健康診断で発見した有所見者・運動部員などの健康相談及び指導を行う。有所見者については学校医と連携し、身体状況に応じた助言を行い治療勧告を行う。

オ 水泳や合宿等への参加における健康管理及び安全指導を行う。

b 美化・衛生管理

生徒保健委員を組織し、清掃点検を定期的に実施するとともに生徒の健康教育に努める。また、環境衛生検査（空気・照度）を学校薬剤師により実施し、学習環境の向上に努める。

ア 校舎内外の清掃を徹底するため、その担当者を設ける。

- ・ 企 画 清掃区域割り当てと清掃の重点目標を決める。
- ・ 清掃用具 用具の適正な配置と補完、用具使用の指導
- ・ 指 導 清掃方法の指導とその徹底を図る。

イ 校舎内外の整理整頓に努める。

c 心の健康

スクールカウンセラーや支援委員会との連絡を密にし、精神的に不安定な生徒の早期発見に努める。

d 指導の重点事項とその方策

インフルエンザ・新型コロナウイルスをはじめその他の感染症防止、熱中症対策、食中毒防止に関する衛生問題、LGBTQ・ジェンダー平等を含む性教育、薬物乱用防止など、各教科・HRでの指導や学年集会での保健講話などにより、その指導の徹底を図ると共に学校保健推進体制の一層の整備、充実に努める。

iv 職員健康診断の実施

- a 職員の安全衛生委員会を開催し、職員健康診断を実施する。
- b 結果を産業医に報告し適切な指示を受ける。

(3) 学校安全計画

- ① 安全点検日を年3回設定し、校舎内外の施設・設備の点検を適切に行い、必要に応じて危険箇所の明示、施設・設備の修繕等を行うことにより安全な学校環境の維持に努める。
- ② 学校内で予想される教育活動中の事故災害については体育館・運動場等の使用について、具体的に注意指導する。
- ③ 運動部員、教職員対象に救急処置講習会（AED活用法、エピペンを含む）を実施する。

(4) 体育指導計画

個々の生徒の体力の状況を把握し、筋力を中心に柔軟性・持久力の養成に努めるとともに安全性の徹底、規律ある行動を通して社会性の育成を図る。

教科指導外においても各自が身体に即した体力増強を計画し、その継続実施による体力づくりに努めるように指導する。

7 学校組織の運営方針

「経営企画会議」（校長、教頭、事務長、首席）において、本校の校務全般にわたる諸課題について検討し、学校運営の改善に努めるとともに、運営委員会において、学校運営をより効率的に行う体制を確立する。

(1) 校務分掌

- i 校長を中心とした校務運営体制のもと、校務分掌における職務と責任を明確にして校務の運営に努める。
- ii 各種委員会が、その機能を果たせるよう校内体制を整える。

(2) 施設・設備の管理

- i 学校の施設、設備を常に最良の状態に保持するよう点検、整備に努める。
- ii 学校環境の整備及び緑化に努める。

(3) 危機管理体制の整備

i 防災・防犯計画

- a 人命尊重と公共物保全の精神に立って、火災の予防と火災や地震の発生時の避難に万全を期し、不法侵入など事件・事故が発生したときにも速やかに対処できるよう安全マニュアルを作成し危機管理体制を整える。
- b 火災や地震に対する防災教育を実施するとともに、火災や地震発生時に適切な行動がとれるよう防災・防犯計画に基づき防災避難訓練を実施する。
- c 防災機器や校内施設・設備の安全点検を実施する。
- d 事件・事故発生時の緊急連絡体制の徹底を図る。

ii 感染症や食中毒

- a インフルエンザ・新型コロナウイルスをはじめその他の感染症防止のため、衛生保健教育を徹底する。
- b 衛生管理に努め、食中毒防止を徹底する。

(4) 職員の健康管理

「大阪府立学校職員安全衛生管理規程」に基づき「安全衛生委員会」を設置し、職員の安全及び健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を図る。

(5) 個人情報の保護と情報管理

大阪府個人情報保護条例に基づき、生徒の個人情報の管理を徹底させる。

8 教員の研修方針・研修計画

(1) 方針

- i 教育方針を達成するための深い洞察力や高い識見による的確な判断力、そして専門職としての確固たる信念による実践力の養成に努める。
- ii 教科指導については自己の専門分野についての研究だけでなく、高い教育的識見と豊かな教養を身につけるよう努める。
- iii 生徒指導については、覚せい剤の乱用や、出会い系サイトを利用した性非行などの問題行動について、きわめて今日的な緊急の課題との認識に立って研修を深め、指導の徹底を図る。また指導においては常に教育的配慮を心がけ、体罰の防止に努める。
- iv 個人情報保護条例及び公文書公開条例の趣旨に基づき、教育情報の適正な管理に努める。

(2) 年間計画

i 教科会（週1回）

- a 教育の方法、評価の在り方の研究
- b 成績不振生徒の教科指導上の問題点や対策の検討

- c 指導内容の精選と課題の適性化
 - d 年間指導計画と進度の打合せ
 - e 研修講座等の伝達研修会の実施
- ii 学年会議（担任と副担任で構成）
 - a 学年団の運営を円滑に行うために協議
 - b 学年の生徒の状況、問題点等について掌握、検討
- iii 分掌会議（週 1 回）
 - a 分掌の運営を円滑にするために協議
 - b 分掌（部）の持っている問題点等について整理、検討
- iv 研究授業
 - a 原則として各教科年 1 回以上の研究授業を実施
 - b 教育実習期間等を利用し、相互研究を実施
- v 研究団体への参加
 - a 各種研究団体の活動には進んで参加し、成果は教科会を通じて伝達

9 教育の情報化の方針

(1) 方針

学校においては、今後ますますコンピュータを活用した教育が進むものと推察される。校内におけるネットワーク環境をはじめ、各種端末や周辺機器の管理及び I C T 活用に向けての教職員への研修・啓発などを行う。

① 校務支援システムの管理

校内で校務支援システムが円滑に活用されるよう管理・整備を行う。

② 校内ネットワーク環境の整備

教職員用 I C T 端末をはじめ、I C T 機器の管理を一元的に行う。

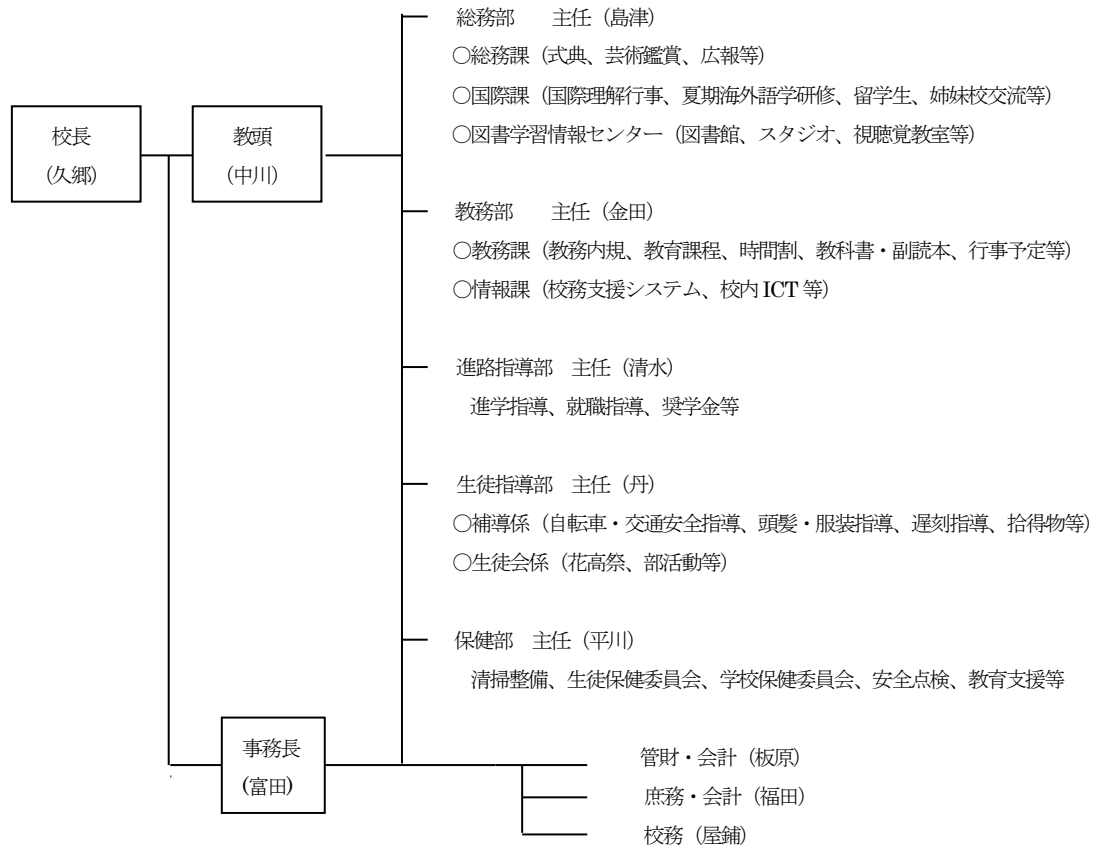
③ 校内ネットワークが滞りなく活用できるよう十分な点検・整備を行い、必要な措置をとる。不具合が発生した場合は、サポートセンター等と協力し速やかに相応の措置をとる。

④ Google Workspace の活用

一人 1 台端末を十分に活用できるよう、教職員研修を行うなどして教員のスキルアップに寄与し、I C T 機器活用の促進を図る。併せて、オンライン授業実施の促進を図る。

第2 校務分掌

1 校務分掌表



・各種委員会

運営委員会、将来構想委員会、教育支援委員会、総探検討委員会、人権教育推進委員会
 学校ホームページ委員会、補導委員会、留学委員会、国内留学委員会、編転入学審査委員会
 予算委員会、学校保健委員会、いじめ防止対策委員会、安全衛生委員会

・その他

ハラスメント対策会議、LGHS 推進担当 PT

・教科主任

国語	社会	数学	理科	英語	保体	芸術	家庭	情報
藤井	斉藤	平川	西村	藏口	梶谷	松田	橋本	村上

2 学年主任、ホームルーム担任一覧表

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組	9組
1年	橋本	櫻井	深田	切山	藏口	中野	宮原	米澤	
2年	西村春	東	小林	榊谷	川越	佐藤	藤井	金本	山住
3年	田中	小松	八木	増本	西村弘	白井	白石	越智	

3 生徒会活動、部活動顧問一覧表

○文化部

部名	代表顧問名	生徒数	
		計	
		男	女
放送	門脇	2	13
サイエンス	大星	2	1
美術	宮原	0	15
吹奏楽	松田	2	10
フォークソング	中野	21	72
パソコン	深田	10	3
マップラム	日野	0	11
茶道	小和田	0	14
ダンス	白石	0	55
漫画研究	櫻井	0	3
英語同好会	小山	1	3
フランス同好会	清水	1	1
合計		39	201

○運動部

部名	代表顧問名	生徒数	
		計	
		男	女
ラグビー	吉野	1	0
サッカー	切山	34	9
男女バスケットボール	丹／小林	31	14
ソフトボール	金田	0	0
硬式テニス	金本	6	6
ソフトテニス	斉藤	1	5
男女バレーボール	藤井／八木	20	24
野球	山住	15	6
卓球	小松	1	1
バドミントン	増本	20	14
剣道	土肥	5	4
柔道	田中	0	1
陸上競技	川西	18	10
器械体操	新里	2	6
水泳	榛田	7	8
合計		161	108

・行事予定表・教育課程表

令和7年度 学校行事予定 (2025年度)

2025.4.1

4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月				
日	行 事	1	2	3	日	行 事	1	2	3	日	行 事	1	2	3	日	行 事	1	2	3
1 火	入学式、開校式、新入生歓迎会、職員研修、新入生オリエンテーション	○	○	○	1 日	学年会	○	○	○	1 日	新入生オリエンテーション	○	○	○	1 日				
2 水	新入生オリエンテーション	○	○	○	2 月	運動会 45分×6回				2 水	学年会	○	○	○	2 火	運動会			
3 木		○	○	○	3 水	運動会 45分×6回	○	○	○	3 木	学年会	○	○	○	3 水				
4 金		○	○	○	4 木	運動会 45分×6回	○	○	○	4 金	学年会	○	○	○	4 木				
5 土		○	○	○	5 金	運動会 45分×6回	○	○	○	5 土	学年会	○	○	○	5 金				
6 日		○	○	○	6 土	運動会 45分×6回	○	○	○	6 日	学年会	○	○	○	6 土				
7 月		○	○	○	7 日	運動会 45分×6回	○	○	○	7 月	学年会	○	○	○	7 日				
8 火		○	○	○	8 日	運動会 45分×6回	○	○	○	8 火	学年会	○	○	○	8 火				
9 水		○	○	○	9 月	運動会 45分×6回	○	○	○	9 水	学年会	○	○	○	9 水				
10 木		○	○	○	10 土	運動会 45分×6回	○	○	○	10 木	学年会	○	○	○	10 木				
11 金		○	○	○	11 日	運動会 45分×6回	○	○	○	11 金	学年会	○	○	○	11 金				
12 土		○	○	○	12 月	運動会 45分×6回	○	○	○	12 土	学年会	○	○	○	12 土				
13 日		○	○	○	13 火	運動会 45分×6回	○	○	○	13 日	学年会	○	○	○	13 日				
14 月		○	○	○	14 水	運動会 45分×6回	○	○	○	14 月	学年会	○	○	○	14 月				
15 火	新入生オリエンテーション	○	○	○	15 木	運動会 45分×6回	○	○	○	15 火	学年会	○	○	○	15 火				
16 水		○	○	○	16 金	運動会 45分×6回	○	○	○	16 水	学年会	○	○	○	16 水				
17 木	新入生オリエンテーション	○	○	○	17 土	運動会 45分×6回	○	○	○	17 木	学年会	○	○	○	17 木				
18 金		○	○	○	18 日	運動会 45分×6回	○	○	○	18 金	学年会	○	○	○	18 金				
19 土		○	○	○	19 月	運動会 45分×6回	○	○	○	19 土	学年会	○	○	○	19 土				
20 日		○	○	○	20 火	運動会 45分×6回	○	○	○	20 日	学年会	○	○	○	20 日				
21 月		○	○	○	21 水	運動会 45分×6回	○	○	○	21 月	学年会	○	○	○	21 月				
22 火	新入生オリエンテーション	○	○	○	22 木	運動会 45分×6回	○	○	○	22 火	学年会	○	○	○	22 火				
23 水		○	○	○	23 金	運動会 45分×6回	○	○	○	23 水	学年会	○	○	○	23 水				
24 木	新入生オリエンテーション	○	○	○	24 土	運動会 45分×6回	○	○	○	24 木	学年会	○	○	○	24 木				
25 金		○	○	○	25 日	運動会 45分×6回	○	○	○	25 金	学年会	○	○	○	25 金				
26 土		○	○	○	26 月	運動会 45分×6回	○	○	○	26 土	学年会	○	○	○	26 土				
27 日		○	○	○	27 火	運動会 45分×6回	○	○	○	27 日	学年会	○	○	○	27 日				
28 月		○	○	○	28 水	運動会 45分×6回	○	○	○	28 月	学年会	○	○	○	28 月				
29 火		○	○	○	29 木	運動会 45分×6回	○	○	○	29 火	学年会	○	○	○	29 火				
30 水		○	○	○	30 金	運動会 45分×6回	○	○	○	30 水	学年会	○	○	○	30 水				
31 木		○	○	○	31 土	運動会 45分×6回	○	○	○	31 木	学年会	○	○	○	31 木				
小		○	○	○	小	運動会 45分×6回	○	○	○	小	学年会	○	○	○	小				
計		○	○	○	計	運動会 45分×6回	○	○	○	計	学年会	○	○	○	計				

4月～6月の計 総計回数

7月～9月の計 総計回数

10 月			11 月			12 月			1 月			2 月			3 月				
日	行 事	1	2	3	日	行 事	1	2	3	日	行 事	1	2	3	日	行 事	1	2	3
1 水	東校祭①				1 土	定北外国語学校創立祝賀会				1 水	元祖 学校説明会				1 日	卒業式①			
2 木					2 日					2 金	学校説明会				2 月	卒業式②	東校生連合会		
3 金					3 月	文化の日				3 土	本校 学校説明会				3 火	1,2年卒業式①・点検			
4 土					4 木	東校祭②				4 日	卒業式③				4 水	卒業式④	一般入学者選抜		
5 日					5 金	東校祭③				5 月	卒業式④				5 木	卒業式⑤	一般入学者選抜		
6 月	中間考査①				6 土	東校祭④				6 火	卒業式⑤				6 金	卒業式⑥	一般入学者選抜		
7 火	中間考査②				7 日	東校祭⑤				7 水	卒業式⑥				7 土	卒業式⑦	一般入学者選抜		
8 水	中間考査③				8 月	東校祭⑥				8 木	卒業式⑦				8 日	卒業式⑧	一般入学者選抜		
9 木	中間考査④				9 火	東校祭⑦				9 金	卒業式⑧				9 月	卒業式⑨	一般入学者選抜		
10 金	中間考査⑤				10 水	東校祭⑧				10 土	卒業式⑨				10 火	卒業式⑩	一般入学者選抜		
11 土					11 木	東校祭⑨				11 日	卒業式⑩				11 水	卒業式⑪	一般入学者選抜		
12 日					12 金	東校祭⑩				12 土	卒業式⑪				12 木	卒業式⑫	一般入学者選抜		
13 月	スポーツの日				13 土	東校祭⑪				13 日	卒業式⑫				13 金	卒業式⑬	一般入学者選抜		
14 火					14 月	東校祭⑫				14 土	卒業式⑬				14 土	卒業式⑭	一般入学者選抜		
15 水					15 火	東校祭⑬				15 日	卒業式⑭				15 日	卒業式⑮	一般入学者選抜		
16 木	東校祭・東校祭実行委員会				16 水	東校祭⑭				16 月	卒業式⑮				16 金	卒業式⑯	一般入学者選抜		
17 金	東校祭・東校祭実行委員会				17 木	東校祭⑮				17 土	卒業式⑯				17 土	卒業式⑰	一般入学者選抜		
18 土					18 金	東校祭⑯				18 日	卒業式⑰				18 日	卒業式⑱	一般入学者選抜		
19 日					19 土	東校祭⑰				19 月	卒業式⑱				19 金	卒業式⑲	一般入学者選抜		
20 月					20 日	東校祭⑱				20 土	卒業式⑲				20 土	卒業式⑳	一般入学者選抜		
21 火					21 月	東校祭⑲				21 日	卒業式㉑				21 日	卒業式㉒	一般入学者選抜		
22 水					22 火	東校祭⑲				22 月	卒業式㉑				22 月	卒業式㉒	一般入学者選抜		
23 木					23 水	東校祭⑲				23 日	卒業式㉒				23 金	卒業式㉓	一般入学者選抜		
24 金					24 木	東校祭⑲				24 土	卒業式㉓				24 土	卒業式㉔	一般入学者選抜		
25 土					25 金	東校祭⑲				25 日	卒業式㉔				25 日	卒業式㉕	一般入学者選抜		
26 日					26 土	東校祭⑲				26 月	卒業式㉕				26 月	卒業式㉖	一般入学者選抜		
27 月					27 日	東校祭⑲				27 土	卒業式㉖				27 土	卒業式㉗	一般入学者選抜		
28 火					28 月	東校祭⑲				28 日	卒業式㉗				28 日	卒業式㉘	一般入学者選抜		
29 水					29 火	東校祭⑲				29 月	卒業式㉘				29 月	卒業式㉙	一般入学者選抜		
30 木					30 水	東校祭⑲				30 日	卒業式㉙				30 日	卒業式㉚	一般入学者選抜		
31 金					31 木	東校祭⑲				31 月	卒業式㉚				31 月	卒業式㉛	一般入学者選抜		
小 計					小 計					小 計					小 計				
行 事 日					行 事 日					行 事 日					行 事 日				
計					計					計					計				

1 月～2 月の計 100

2 年普通科 北校授業日数 179

3 年 北校授業日数 103

10 月～12 月の計 100

2 年普通科 北校授業日数 179

3 年 北校授業日数 103

令和7年度 大阪府立 花 園 高等学校
全日制の課程 普 通 科 教育課程実施計画

学校番号 316

入 学 年 度		令 和 7 年 度										備 考
類 型 等		A 型					B 型					
学 年		(Ⅰ)	Ⅱ	Ⅲ	計	(Ⅰ)	Ⅱ	Ⅲ	計			
学 級 数		6										
教 科 科 目												
国語	現代の国語	2			16～20	2			10～14	3年次 ＜A型＞ 「(学)現代文演習」と「(学)国語演習」は、いずれか1つのみ選択可。		
	言語文化	3				3						
	論理国語		2	3			2	3				
	文学国語		2△									
	古典探究		3	3			2△					
	(学)現代文演習			2▲								
地理 歴史	(学)国語演習			2▲								
	(学)理系古典演習							2▲				
	地理総合	2			10～12	2			4 ＜A型＞ 2年次 3□から1科目選択 3年次 3■から1科目選択 「(学)世界史演習」の選択は、「(学)世界史研究」を選択していることとする。 「(学)日本史演習」の選択は、「(学)日本史研究」を選択していることとする。 「(学)地理演習」の選択は、「地理探究」を選択していることとする。			
	地理探究			3■			2					
	歴史総合	2					2					
	日本史探究		3□									
	世界史探究		3□									
	(学)地理演習			2▲								
	(学)日本史研究			3■								
	(学)日本史演習			2▲								
(学)世界史研究			3■									
(学)世界史演習			2▲									
公民	公共		2		5～7		2		2			
	政治・経済			3								
	(学)政治・経済演習			2▲								
数学	数学Ⅰ	3			9～17	3			17～21 3年次 ＜B型＞ 3◇から1科目選択 (学)数学ⅠA演習3と(学)数学ⅠA演習2は、いずれか1つのみ選択可能			
	数学Ⅱ		4				4					
	数学Ⅲ							3◇				
	数学A	2				2						
	数学B		2△				2					
	数学C			2▲				3				
	(学)数学Ⅰ演習			2▲								
	(学)数学A演習			2▲								
	(学)数学ⅠA演習2						2▲					
	(学)数学ⅠA演習3						3◇					
(学)数学ⅡBC演習					2▲							
理科	物理基礎				6～10		2		15～19 3年次 ＜A型＞ 「生物」と「(学)生物基礎演習」は、いずれか1つのみ選択可能。 ＜B型＞ 4◎から1科目選択 「(学)物理演習」の選択は、「物理」を選択していること。 「(学)生物演習」の選択は、「生物」を選択していること。			
	物理							4◎				
	化学基礎	2				2						
	化学						2	3				
	生物基礎		2				2					
	生物			4▲				4◎				
	地学基礎			2								
	(学)物理演習							2▲				
	(学)化学演習							2▲				
	(学)生物演習							2▲				
保健 体育	(学)生物基礎演習			2▲								
	体育	3	3	2	10～12	3	3	2	10			
	保健	1	1			1	1					
(学)ライフ・スポーツ			2▲									
芸術	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ	2			2～6	2			2 「芸術Ⅱ」は「芸術Ⅰ」を、「芸術Ⅲ」は「芸術Ⅱ」を履修していること。 「芸術Ⅱ」は2年次または3年次どちらかのみ履修可能 3年次 (学)保育音楽、「(学)生活美術」、「芸術Ⅱ」「芸術Ⅲ」は、いずれか1つのみ選択可能。			
	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ		2△	2▲								
	音楽Ⅲ・美術Ⅲ・書道Ⅲ			2▲								
	(学)保育音楽			2▲								
	(学)生活美術			2▲								
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3			18～24	3			18～22			
	英語コミュニケーションⅡ		3				3					
	英語コミュニケーションⅢ			3				3				
	論理・表現Ⅰ	3				3						
	論理・表現Ⅱ		3				3					
	論理・表現Ⅲ			3				3				
	(学)英語演習A		2△				2△					
	(学)英語演習B			2▲				2▲				
	(学)韓国朝鮮語入門			2▲								
家庭	家庭基礎		2		2		2		2			
	情報Ⅰ	2				2						
情報	情報Ⅱ				2～4		2△		2～6			
	(学)情報実習			2▲				2▲				
教科科目の計		30	30	30	90	30	30	30	90			
特別活動 HR活動		1	1	1	3	1	1	1	3	『志学』		
総合的な探究の時間		1	1	1	3	1	1	1	3	『可能性への道』『志学』		
総 計		32	32	32	96	32	32	32	96			
選択の方法		2年次：2△から1科目選択 3年次：2▲、4▲から8単位選択				2年次：2△から1科目選択 3年次：2▲から6単位選択						

入 学 年 度		令 和 6 年 度										備 考	
類 型 等		A 型					B 型						
学 年		I	(Ⅱ)	Ⅲ	計		I	(Ⅱ)	Ⅲ	計			
学 級 数		6											
教科	科 目												
国語	現代の国語	2				16～20	2				12～14	3年次 <A型> 「(学)現代文演習」と「(学)国語演習」は、いずれか1つのみ選択可。	
	言語文化	3					3						
	論理国語		2	3				2	3				
	文学国語		2△										
	古典探究		3	3				2					
	(学)現代文演習			2▲									
	(学)国語演習			2▲									
地理 歴史	(学)理系古典演習								2▲		4	<A型> 2年次 3□から1科目選択 3年次 3■から1科目選択 「(学)世界史演習」の選択は、「(学)世界史研究」を選択していることとする。 「(学)日本史演習」の選択は、「(学)日本史研究」を選択していることとする。 「(学)地理演習」の選択は、「地理探究」を選択していることとする。	
	地理総合	2				2							
	地理探究			3■									
	歴史総合	2				2							
	日本史探究		3□										
	世界史探究		3□										
	(学)地理演習			2▲									
	(学)日本史研究			3■									
	(学)日本史演習			2▲									
	(学)世界史研究			3■									
公民	(学)世界史演習			2▲							2		
	公共		2				2						
	政治・経済 (学)政治・経済演習			3 2▲									
数学	数学Ⅰ	3				9～17	3				17～21	3年次 <B型> 3◇から1科目選択 (学)数学ⅠA演習3と(学)数学ⅠA演習2は、いずれか1つのみ選択可能	
	数学Ⅱ		4					4					
	数学Ⅲ								3◇				
	数学A	2					2						
	数学B		2△					2					
	数学C			2▲					3				
	(学)数学Ⅰ演習			2▲									
	(学)数学A演習			2▲									
	(学)数学ⅠA演習2								2▲				
	(学)数学ⅠA演習3								3◇				
(学)数学ⅡBC演習							2▲						
理科									2▲		15～19	3年次 <A型> 「生物」と「(学)生物基礎演習」は、いずれか1つのみ選択可能。 <B型> 4◎から1科目選択 「(学)物理演習」の選択は、「物理」を選択していること。 「(学)生物演習」の選択は、「生物」を選択していること。	
	物理基礎						2						
	物理							4◎					
	化学基礎	2				2							
	化学						2	3					
	生物基礎		2				2						
	生物			4▲				4◎					
	地学基礎			2									
	(学)物理演習							2▲					
	(学)化学演習							2▲					
保健 体育	(学)生物演習							2▲			10		
	(学)生物基礎演習			2▲									
	体育	3	3	2		3	3	2					
芸術	保健	1	1			10～12	1	1			2	「芸術Ⅱ」は「芸術Ⅰ」を、「芸術Ⅲ」は「芸術Ⅱ」を履修していること。 「芸術Ⅱ」は2年次または3年次どちらかのみ履修可能 3年次 「(学)保育音楽」、「(学)生活美術」、「芸術Ⅱ」、「芸術Ⅲ」は、いずれか1つのみ選択可能。	
	(学)ライフ・スポーツ			2▲									
	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ	2				2							
	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ		2△	2▲									
	音楽Ⅲ・美術Ⅲ・書道Ⅲ			2▲									
	(学)保育音楽			2▲									
外国語	(学)生活美術			2▲							18～20		
	英語コミュニケーションⅠ	3				3							
	英語コミュニケーションⅡ		3				3						
	英語コミュニケーションⅢ			3				3					
	論理・表現Ⅰ	3				3							
	論理・表現Ⅱ		3				3						
	論理・表現Ⅲ			3				3					
	(学)英語演習A		2△										
家庭	(学)英語演習B			2▲				2▲			2～6		
	(学)韓国朝鮮語入門			2▲									
情報	家庭基礎		2			2		2			2～4		
	情報Ⅰ	2				2							
	情報Ⅱ		2△										
情報	(学)情報実習			2▲				2▲					
教科科目の計		30	30	30	90		30	30	30	90			
特別活動・HR活動		1	1	1	3		1	1	1	3		『志学』	
総合的な探究の時間		1	1	1	3		1	1	1	3		『可能性への道』『志学』	
総 計		32	32	32	96		32	32	32	96			
選択の方法		2年次：2△から1科目選択 3年次：2▲、4▲から8単位選択					3年次：2▲から6単位選択						

入 学 年 度		令 和 5 年 度								備 考
類 型 等		A 型				B 型				
学 年		I	II	(Ⅲ)	計	I	II	(Ⅲ)	計	
学 級 数		6								
教科 科 目										
国語	現代の国語	2			16～20	2			12～14	3年次 <A型> 「(学)現代文演習」と「(学)国語演習」は、いずれか1つのみ選択可。
	言語文化	3				3				
	論理国語		2	3			2	3		
	文学国語		2△							
	古典探究		3	3			2			
	(学)現代文演習			2▲						
地理 歴史	(学)国語演習			2▲						
	(学)歴史古典演習							2▲		
	地理総合	2			10～12	2			4	<A型> 2年次 3□から1科目選択 3年次 3■から1科目選択 「(学)世界史演習」の選択は、「(学)世界史研究」を選択していることとする。 「(学)日本史演習」の選択は、「(学)日本史研究」を選択していることとする。 「(学)地理演習」の選択は、「地理探究」を選択していることとする。
	地理探究			3■						
	歴史総合	2				2				
	日本史探究		3□							
	世界史探究		3□							
	(学)地理演習			2▲						
	(学)日本史研究			3■						
	(学)日本史演習			2▲						
(学)世界史研究			3■							
(学)世界史演習			2▲							
公民	公共		2		5～7		2		2	
	政治・経済			3						
	(学)政治・経済演習			2▲						
数学	数学Ⅰ	3			9～17	3			17～21	3年次 <B型> 3◇から1科目選択 (学)数学ⅠA演習3と(学)数学ⅠA演習2は、いずれか1つのみ選択可能
	数学Ⅱ		4				4			
	数学Ⅲ							3◇		
	数学A	2				2				
	数学B		2△				2			
	数学C			2▲				3		
	(学)数学Ⅰ演習			2▲						
	(学)数学A演習			2▲						
	(学)数学ⅠA演習2						2▲			
	(学)数学ⅠA演習3						3◇			
(学)数学ⅡBC演習					2▲					
理科	物理基礎				6～10		2		15～19	3年次 <A型> 「生物」と「(学)生物基礎演習」は、いずれか1つのみ選択可能。 <B型> 4◎から1科目選択 「(学)物理演習」の選択は、「物理」を選択していること。 「(学)生物演習」の選択は、「生物」を選択していること。
	物理							4◎		
	化学基礎	2				2				
	化学						2	3		
	生物基礎		2				2			
	生物			4▲				4◎		
	地学基礎			2						
	(学)物理演習						2▲			
	(学)化学演習						2▲			
	(学)生物演習						2▲			
(学)生物基礎演習			2▲							
保健 体育	体育	3	3	2	10～12	3	3	2	10	
	保健	1	1			1	1			
	(学)ライフ・スポーツ			2▲						
芸術	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ	2			2～6	2			2	「芸術Ⅱ」は「芸術Ⅰ」を、「芸術Ⅲ」は「芸術Ⅱ」を履修していること。 「芸術Ⅱ」は2年次または3年次どちらかのみ履修可能 3年次 「(学)保育音楽」、「(学)生活美術」、「芸術Ⅱ」「芸術Ⅲ」は、いずれか1つのみ選択可能。
	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ		2△	2▲						
	音楽Ⅲ・美術Ⅲ・書道Ⅲ			2▲						
	(学)保育音楽			2▲						
	(学)生活美術			2▲						
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3			18～24	3			18～20	
	英語コミュニケーションⅡ		3				3			
	英語コミュニケーションⅢ			3				3		
	論理・表現Ⅰ	3				3				
	論理・表現Ⅱ		3				3			
	論理・表現Ⅲ			3				3		
	(学)英語演習Ⅰ		2△							
	(学)英語演習Ⅱ			2▲				2▲		
	(学)韓国朝鮮語入門			2▲						
家庭	家庭基礎		2		2		2		2	
情報	情報Ⅰ	2			2～6	2			2～4	
	情報Ⅱ		2△							
	(学)情報実習			2▲				2▲		
数教科目の計		30	30	30	90	30	30	30	90	
特別活動・HR活動		1	1	1	3	1	1	1	3	『志学』
総合的な探究の時間		1	1	1	3	1	1	1	3	『可能性への道』『志学』
総 計		32	32	32	96	32	32	32	96	
選択の方法		2年次: 2△から1科目選択 3年次: 2▲、4▲から8単位選択				3年次: 2▲から6単位選択				

(別紙様式1-①)

令和7年度 大阪府立 花 園 高等学校
全日制の課程 国際文化科 教育課程実施計画

学校番号	316
------	-----

入 学 年 度		令 和 7 年 度				備 考	
学 年		(Ⅰ)	Ⅱ	Ⅲ	計		
学 級 数		2					
教科	科 目						
国語	現代の国語	2				16～20	『(学)現代文演習』と『(学)国語演習』は、いずれか1つのみ選択可。
	言語文化	3					
	論理国語		2	3			
	文学国語		2△				
	古典探究		3	3			
	(学)現代文演習			2▲			
	(学)国語演習			2▲			
地理 歴史	地理総合	2				10～12	2年次 3□から1科目選択 3年次 3■から1科目選択 『(学)世界史演習』の選択は、『(学)世界史研究』を選択していることとする。 『(学)日本史演習』の選択は、『(学)日本史研究』を選択していることとする。 『(学)地理演習』の選択は、『地理探究』を選択していることとする。
	地理探究			3■			
	歴史総合	2					
	日本史探究		3□				
	世界史探究		3□				
	(学)地理演習			2▲			
	(学)日本史研究			3■			
	(学)日本史演習			2▲			
	(学)世界史研究			3■			
	(学)世界史演習			2▲			
公民	公共		2			5～7	
	政治・経済			3			
	(学)政治・経済演習			2▲			
数学	数学Ⅰ	3				5～9	
	数学A		2				
	(学)数学Ⅰ演習			2▲			
	(学)数学A演習			2▲			
理科	科学と人間生活	2				4～10	『生物』および『(学)生物基礎演習』は、いずれか1つのみ選択可能であり、『生物基礎』を履修していることが必要。
	生物基礎		2△				
	生物			4▲			
	地学基礎			2			
	(学)生物基礎演習			2▲			
保健 体育	体育	3	3	2		10	
	保健	1	1				
芸術	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ	2				2～6	『芸術Ⅱ』は『芸術Ⅰ』を、『芸術Ⅲ』は『芸術Ⅱ』を履修していることが必要。 『芸術Ⅱ』は2年次または3年次どちらかのみ履修可能 3年次 『(学)保育音楽』、『(学)生活美術』、『芸術Ⅱ』『芸術Ⅲ』は、いずれか1つのみ選択可能。
	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ		2△	2▲			
	音楽Ⅲ・美術Ⅲ・書道Ⅲ			2▲			
	(学)保育音楽			2▲			
	(学)生活美術			2▲			
外国語	英語コミュニケーションⅠ					3	総合英語Ⅰにより3単位代替
家庭	家庭基礎		2			2	
情報	情報Ⅰ	2				2～4	
	(学)情報実習			2▲			
英語	総合英語Ⅰ	3				22	
	総合英語Ⅱ		3				
	総合英語Ⅲ			3			
	ディベート・ディスカッションⅠ	2					
	ディベート・ディスカッションⅡ		2				
	エッセイライティングⅠ	3					
	エッセイライティングⅡ		3	3			
[学] 国際 文化	(学)速読英語演習			2		6～8	2年次 2○から1科目選択 3年次 2◎から1科目選択 『(学)中国語文化Ⅱ』は、『(学)中国語文化Ⅰ』を履修していることとする。 『(学)韓国朝鮮語文化Ⅱ』は、『(学)韓国朝鮮語文化Ⅰ』を履修していることとする。 『(学)フランス語文化Ⅱ』は、『(学)フランス語文化Ⅰ』を履修していることとする。
	(学)ディベート・ディスカッションA			2◎			
	(学)ディベート・ディスカッションB			2◎			
	(学)中国語文化Ⅰ		2○				
	(学)中国語文化Ⅱ			2▲			
	(学)韓国朝鮮語文化Ⅰ		2○				
	(学)韓国朝鮮語文化Ⅱ			2▲			
	(学)フランス語文化Ⅰ		2○				
	(学)フランス語文化Ⅱ			2▲			
教科・科目の計		30	30	30	90		
特別活動 HR活動		1	1	1	3	『志学』	
総合的な探究の時間		1	1	1	3	『可能性への道』『志学』	
総 計		32	32	32	96		
選択の方法		2年次: 2△から1科目選択 3年次: 2▲、4▲から4単位選択					

入 学 年 度		令 和 6 年 度				備 考
学 年		I	Ⅱ	Ⅲ	計	
学 級 数		2				
教科	科 目					
国語	現代の国語	2			16～20	「(学)現代文演習」と「(学)国語演習」は、いずれか1つのみ選択可。
	言語文化	3				
	論理国語		2	3		
	文学国語		2△			
	古典探究		3	3		
	(学)現代文演習			2▲		
	(学)国語演習			2▲		
地理 歴史	地理総合	2			10～12	2年次 3□から1科目選択 3年次 3■から1科目選択 「(学)世界史演習」の選択は、「(学)世界史研究」を選択していることとする。 「(学)日本史演習」の選択は、「(学)日本史研究」を選択していることとする。 「(学)地理演習」の選択は、「地理探究」を選択していることとする。
	地理探究			3■		
	歴史総合	2				
	日本史探究		3□			
	世界史探究		3□			
	(学)地理演習			2▲		
	(学)日本史研究			3■		
	(学)日本史演習			2▲		
	(学)世界史研究			3■		
(学)世界史演習			2▲			
公民	公共		2		5～7	
	政治・経済			3		
	(学)政治・経済演習			2▲		
数学	数学Ⅰ	3			5～9	
	数学A		2			
	(学)数学Ⅰ演習			2▲		
	(学)数学A演習			2▲		
理科	科学と人間生活	2			4～10	「生物」および「(学)生物基礎演習」は、いずれか1つのみ選択可能であり、「生物基礎」を履修していることが必要。
	生物基礎		2△			
	生物			4▲		
	地学基礎			2		
保健 体育	(学)生物基礎演習			2▲		
	体育	3	3	2	10	
保健	1	1				
芸術	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ	2			2～6	「芸術Ⅱ」は「芸術Ⅰ」を、「芸術Ⅲ」は「芸術Ⅱ」を履修していることが必要。 「芸術Ⅱ」は2年次または3年次どちらかのみ履修可能 3年次 「(学)保育音楽」、「(学)生活美術」、「芸術Ⅱ」、「芸術Ⅲ」は、いずれか1つのみ選択可能。
	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ		2△	2▲		
	音楽Ⅲ・美術Ⅲ・書道Ⅲ			2▲		
	(学)保育音楽			2▲		
	(学)生活美術			2▲		
外国語	英語コミュニケーションⅠ				3	総合英語Ⅰにより3単位代替
家庭	家庭基礎		2		2	
情報	情報Ⅰ	2			2～6	
	情報Ⅱ		2△			
	(学)情報実習			2▲		
英語	総合英語Ⅰ	3			22	「総合英語Ⅰ」は「英語コミュニケーションⅠ」の代替
	総合英語Ⅱ		3			
	総合英語Ⅲ			3		
	ディベート・ディスカッションⅠ	2				
	ディベート・ディスカッションⅡ		2			
	エッセイライティングⅠ	3				
	エッセイライティングⅡ		3	3		
学 国際文化	(学)連読英語演習			2	6～8	2年次 2○から1科目選択 3年次 2◎から1科目選択 「(学)中国語文化Ⅱ」は、「(学)中国語文化Ⅰ」を履修していることとする。 「(学)韓国朝鮮語文化Ⅱ」は、「(学)韓国朝鮮語文化Ⅰ」を履修していることとする。 「(学)フランス語文化Ⅱ」は、「(学)フランス語文化Ⅰ」を履修していることとする。
	(学)ディベート・ディスカッションA			2◎		
	(学)ディベート・ディスカッションB			2◎		
	(学)中国語文化Ⅰ		2○			
	(学)中国語文化Ⅱ			2▲		
	(学)韓国朝鮮語文化Ⅰ		2○			
	(学)韓国朝鮮語文化Ⅱ			2▲		
	(学)フランス語文化Ⅰ		2○			
	(学)フランス語文化Ⅱ			2▲		
教科・科目の計		30	30	30	90	
特別活動 HR活動		1	1	1	3	『志学』
総合的な探究の時間		1	1	1	3	『可能性への道』『志学』
総 計		32	32	32	96	
選択の方法		2年次: 2△から1科目選択 3年次: 2▲、4▲から4単位選択				

入 学 年 度		令 和 5 年 度				備 考
学 年		I	II	III	計	
学 級 数		2				
教科・科目						
国語	現代の国語	2			16～20	「(学)現代文演習」と「(学)国語演習」は、いずれか1つのみ選択可。
	言語文化	3				
	論理国語		2	3		
	文学国語		2△			
	古典探究		3	3		
	(学)現代文演習			2▲		
	(学)国語演習			2▲		
地理 歴史	地理総合	2			10～12	2年次 3□から1科目選択 3年次 3■から1科目選択 「(学)世界史演習」の選択は、「(学)世界史研究」を選択していることとする。 「(学)日本史演習」の選択は、「(学)日本史研究」を選択していることとする。 「(学)地理演習」の選択は、「地理探究」を選択していることとする。
	地理探究			3■		
	歴史総合	2				
	日本史探究		3□			
	世界史探究		3□			
	(学)地理演習			2▲		
	(学)日本史研究			3■		
	(学)日本史演習			2▲		
	(学)世界史研究			3■		
	(学)世界史演習			2▲		
公民	公共		2		5～7	
	政治・経済			3		
	(学)政治・経済演習			2▲		
数学	数学Ⅰ	3			5～9	
	数学A		2			
	(学)数学Ⅰ演習			2▲		
	(学)数学A演習			2▲		
理科	科学と人間生活	2			4～10	「生物」および「(学)生物基礎演習」は、いずれか1つのみ選択可能であり、「生物基礎」を履修していることが必要。
	生物基礎		2△			
	生物			4▲		
	地学基礎			2		
	(学)生物基礎演習			2▲		
保健 体育	体育	3	3	2	10	
	保健	1	1			
芸術	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ	2			2～6	「芸術Ⅱ」は「芸術Ⅰ」を、「芸術Ⅲ」は「芸術Ⅱ」を履修していることが必要。 「芸術Ⅱ」は2年次または3年次どちらかのみ履修可能 3年次 「(学)保育音楽」、「(学)生活美術」、「芸術Ⅱ」「芸術Ⅲ」は、いずれか1つのみ選択可能。
	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ		2△	2▲		
	音楽Ⅲ・美術Ⅲ・書道Ⅲ			2▲		
	(学)保育音楽			2▲		
	(学)生活美術			2▲		
外国語	英語コミュニケーションⅠ				3	総合英語Ⅰにより3単位代替
家庭	家庭基礎		2		2	
情報	情報Ⅰ	2			2～6	
	情報Ⅱ		2△			
	(学)情報実習			2▲		
英語	総合英語Ⅰ	3			22	「総合英語Ⅱ」は「英語コミュニケーションⅠ」の代替
	総合英語Ⅱ		3			
	総合英語Ⅲ			3		
	ディベート・ディスカッションⅠ	2				
	ディベート・ディスカッションⅡ		2			
	エッセイライティングⅠ	3				
	エッセイライティングⅡ		3	3		
学 国際 文化	(学)速読英語演習			2	6～8	2年次 2○から1科目選択 3年次 2◎から1科目選択 「(学)中国語文化Ⅱ」は、「(学)中国語文化Ⅰ」を履修していることとする。 「(学)韓国朝鮮語文化Ⅱ」は、「(学)韓国朝鮮語文化Ⅰ」を履修していることとする。 「(学)フランス語文化Ⅱ」は、「(学)フランス語文化Ⅰ」を履修していることとする。
	(学)ディベート・ディスカッションA			2◎		
	(学)ディベート・ディスカッションB			2◎		
	(学)中国語文化Ⅰ		2○			
	(学)中国語文化Ⅱ			2▲		
	(学)韓国朝鮮語文化Ⅰ		2○			
	(学)韓国朝鮮語文化Ⅱ			2▲		
	(学)フランス語文化Ⅰ		2○			
	(学)フランス語文化Ⅱ			2▲		
教科・科目の計		30	30	30	90	
特別活動 HR活動		1	1	1	3	「志学」
総合的な探究の時間		1	1	1	3	「可能性への道」「志学」
総 計		32	32	32	96	
選択の方法		2年次: 2△から1科目選択 3年次: 2▲、4▲から4単位選択				